

地域新聞 ならしの朝日 令和5年11月5日号

中学野球の魅力伝えたい 第3回小中野球交流会

第3回習志野市小中野球交流会が8月27日、第一カッター球場で開かれた。

小学生球児たちが中学校でも野球を続け、さらに技術レベルの向上を図ってほしいと、習志野市中学校体育連盟野球専門部と習志野市少年野球連盟によって催されている。中学校野球部の監督・コーチが小学6年生を指導し、中学生も協力した。



指導する顧問の先生

開催に当たり野球専門部の内山幸一専門部長は「多くの選手が集まってくれてうれしく思っています。中学野球で活躍できたらと願っている選手もたくさんいます。部活ではたくましくなりたい」と挨拶した。

ウォーミングアップの後には、ポジションごとに守備と打撃の指導が行われた。内野手には「正しく投げることが身体に余分な負担をかける」ことが伝えられ、ボールの握り方、肘(ひじ)と腕の回し方などが教えられる。捕手たちは変化球の捕球でのレクチャーを受けた。打撃の指導では

「ウォーミングアップの時から楽しみました。やさしく教えてもらい、やりやすかったです。ありがとうございました」とお礼を述べた。



身体の中心を意識することなどが話された。

練習を終え、中学生を代表して第五中学校の山下将暉主将は「さらに成長して欲しい。部活ではたくましくなりたい」と話した。

第二中学校顧問の齋藤二郎先生は「目をキラキラさせて参加する様子をたのしく思います。習志野市選抜チームは関東大会に出場し、今夏の高3の年代はこの選抜チーム出身者が5人甲子園に行きました。みなさんが上手くなると練習するきっかけになればありがたい」と呼びかけた。